



天文台だより

銀河の森天文台
2019 秋号
Vol. 85

第11回陸別スターライトフェスティバル大盛況！



講演会でお話する向井利典先生

7月13日(土)、天文台開館日記念イベントとして第11回陸別スターライトフェスティバルを開催しました。今年は、向井利典JAXA名誉教授をお招きして、講演会「地球のしっぽのお話」を開催しました。

講演会では、向井先生が開発担当した衛星による観測でわかってきた地球のしっぽ(磁場)の様子が紹介され、そのしっぽにはオーロラのタネが含まれていて、月軌道以上に伸びている等、目で見ただけではイメージできない太陽と地球の関係や地球の周りの様子を知ることができました。また、衛星打ち上げの様子やオーロラの動画など貴重な映像の紹介もあり、講演会最後には参加者から活発な質問がでていました。

今年は天文台入口駐車場に移動販売車が登場し、ホットドックなどの販売がありました。こだわりのふわふわパンとスパイシーなソーセージの組み合わせはとてもおいしく、小さな子もあつという間に食べていました。

「館長コラム」上出洋介(牡牛座)

秋から冬にかけては、夜空がクリアで星がきれいに輝きますね。残光(という言葉があるのかどうか定かではありませんが)が少なく、季語にまでなっている「釣瓶落とし」で表現されるように、秋の日は落ちるのが速くなったと感ずります。その分だけ、空気中の塵が少なく、空は暗さを増すということです。この理屈は月にも当てはまります。秋から冬に向かう月の青白さは、神々しくもありますね。

夜空にある無数の星のうち惑星は、恒星に比べて地球の近くにあるため、大気の様様までがよく見えます。加えて、地球のでき方と多くの共通点があり、地球の生命の誕生を考える上で参考になる点も多いことも惑星の特徴です。当科学館の日本最大級の大型望遠鏡で秋の夜空に輝く月と惑星を眺めながら、地球上の生命の誕生と進化に想いを馳せる。こんな贅沢って、他にありますか。わからないことがあったら、スタッフに何でも聞いてくださいね。



(上出洋介館長)

10/26(土)、「北海道・星見人の会」を開催します！

10月26日(土)、北海道の星好きな方々が集まり、交流を深める会「北海道・星見人の会」が銀河の森天文台で開催されます。

星見人の会は誰でも参加できますが、事前参加予約と参加費がかかります。詳細は当館HPをご覧ください。

11/9(土)、「驚き！おもしろ科学実験2019」を開催します！

☆ 驚き！おもしろ科学実験2019

開催日時：11月9日(土) 午後1時～6時

11月9日(土)、毎年大好評のイベント「驚き！おもしろ科学実験2019」を開催します。北海道大学、名古屋大学、北見工業大学などの先生・学生が様々な実験を考え、各々実験コーナーを担当します。実験コーナーには足寄動物化石博物館も参加します。化石掘りや液体窒素を使った実験などおもしろ実験がたくさん登場します。

※ 予約不要、入館料のみで参加できます。

暦表

(陸別町)

	日の出	日の入	月齢	月の出	月の入
10月 1日	5:18	17:11	2.4	7:53	18:54
10月 15日	5:34	16:47	16.4	17:40	6:33
11月 1日	5:56	16:21	4.0	10:12	19:30
11月 15日	6:14	16:05	18.0	17:58	8:40
12月 1日	6:33	15:54	4.5	10:35	20:06
12月 15日	6:46	15:53	18.5	18:45	9:26

銀河の森天文台Twitter始めました！

@ginganomori_obs

今年度7月より、銀河の森天文台Twitterを始めました。いろいろな天文現象や、天文台の様子などをお知らせしていきます。ぜひご覧ください。



天文行事&暦

10月

- 8 寒露(24節気:太陽黄経195°)
- 14 ○満月
- 20 水星が東方最大離角
(光度:-0.1等, 離角:24°.6)
- 24 霜降(24節気:太陽黄経210°)
- 26 北海道・星見人の会
- 26, 27, 30, 31 ハロウィンナイト観望会
- 28 ●新月
天王星が衝
(光度:+5.7等, 視直径:3".7)

11月

- 8 立冬(24節気:太陽黄経225°)
- 9 驚き!おもしろ科学実験2019
- 12 ○満月
- 18 しし座流星群が極大
(AM8時 最大15個/時)
- 22 小雪(24節気:太陽黄経240°)
- 27 ●新月
- 28 水星が西方最大離角
(光度:-0.5等, 離角:20°.1)

12月

- 7 大雪(24節気:太陽黄経255°)
- 12 ○満月
- 14, 15 ふたご座流星群観望会
- 15 ふたご座流星群が極大
(AM2時 最大40個/時)
- 22 冬至(24節気:太陽黄経270°)
- 26 ●新月
部分日食観望会
部分日食(陸別): 始14:33、
最大15:28、没15:58

秋のイベント情報!!

☆ハロウィンナイト観望会

ハロウィンにちなみ、観望会を開催します。観望会では、おぼけみtainな星座や天体をご案内します!期間中、仮装してご来館いただくと、素敵なプレゼントを差し上げます。

開催日: 10月26日(土)、27日(日)、30日(水)、31日(木)

☆ふたご座流星群観望会

ふたご座流星群が12月15日の午前2時に極大時刻を迎え、これに前後して流星が多く見られると予想されるため観望会を開催します。

開催日: 12月14日(土)、15日(日)

説明会: 午後7時30分から

☆部分日食観望会

12月26日午後、部分日食が全国で見られるため観望会を開催します。陸別では、日食中に太陽が沈んでしまいます。食分最大は0.28です。

開催日: 12月26日(木)

説明会: 午後2時から

部分日食(陸別): 始14:33、最大15:28、没15:58

天体そもそも話「宇宙」

このコラムでは何気なく使っている、天文に関する言葉にどんな由来があるのかについて書いていこうと思います。記念すべき一回目は、「宇宙」という言葉についてです。普段意識していないかもしれませんが、どんな意味でこの漢字が充てられていったのでしょうか?

大辞林によると古代の中国で「宇」は「天」を、「宙」が「地」を意味していると書かれていました。つまり「世界」を表す言葉であったと言われていました。

大辞林にはもう一つの意味も書かれており、こちらも古代中国でそれぞれ「宇」が四方と上下の空間、「宙」が現在・過去・未来の時間を意味していたと書かれています。つまり「時空」と似たような意味でも使われていたんですね。

現在日本で使われている「宇宙」の意味に照らし合わせてみると、確かに地球は周り全てが宇宙空間に囲まれていますし、星々の光は遥かな昔・バラバラの時間に発せられたものが同時に私たちの眼に届いています。そう考えると後者の方がピッタリですね。(三)

ペッコカめぐり「もう一つのうお座」

秋の夜空には、二つのうお座が見えています。一つは黄道12星座の「うお座」、もう一つは「みなみのうお座」です。

「みなみのうお座」は名前のとおり「うお座」よりも南に位置していて、北海道からは秋の南の低空に見ることができます。あまり耳にする事のない星座かもしれませんが、探すのは「うお座」よりも簡単です。秋の四辺形から、「みなみのうお座」にある1等星、フォーマルハウトを探せばよいのです。

フォーマルハウトは、南のひとつ星とも呼ばれる、秋の星座の唯一の1等星、とても簡単に見つけられますので、天文台の職員に聞いて探してみてください。(中)

天文台からのお知らせ

☆ 10月より開館時間が、13:00~21:30となります。
(昼間13:00~17:00、夜間17:00~21:30)

☆ 年末年始12月30日(月)~1月7日(火)の期間は、天文台休館日となります。

発行・編集: りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)

〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL: 0156-27-8100 FAX: 27-8102

URL: <http://www.rikubetsu.jp/tenmon/index.html>

E-mail: ginga@rikubetsu.jp